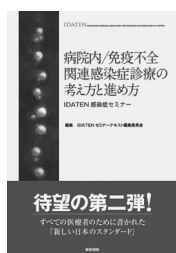


書評

[評者]
香坂 俊
慶應義塾大学病院・循環器
内科



病院内/免疫不全 関連感染症診療の考え方と進め方 IDATEN 感染症セミナー

IDATEN セミナーテキスト編集委員会 編

B5判 頁328 2011年
定価 5,250 円(本体 5,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01244-7]医学書院刊

ああ、またですか。抗菌薬の選択が議論にもならずスルーされていくのをみて、僕はため息をつきます。しかも、よりによってカテーテルをそのまま残しておいていただいているなんて、培養はどうなっているのでしょうか？ もう提出済みですか？ しかも、そのサンプルは2セットともカテーテルから取ったから問題ない？ いやあ、感激です。これで緑膿菌が出たらコンタミでも何でも治療を開始できますね。え、もうメロペネムが使われている？ それはもう神の一手ですね。文字通り言うことは何もありません。

臨床感染症というのはもっといろんな科の先生が知っていてもいいのではないかと思います。そのうえで身近な疑問に答えていただけるエキスパートがいてくれるとありがたいのですが、そんなぜいたくは望んではいけませんよね。かといって成書を読んでもきめ細かいところがわかりません。分量も多いし、別にわかっていることを全部書いてくれなくてもいいのですよ。培養の取り方とかカテ抜去のタイミング、そこが知りたいのです。

そんな時に IDATEN 講師陣がセミナーを開いてくださいました。いいですね。症例から始まって、ポイントを時系列に沿って順番に丁寧に押さえてくれました。あと、ガイドラインに根ざした方針を示しながら、「ここから先は、エビデンスはないけれども僕らはこうしています」と、しっかり線を引いてくれることがとてもありがたかったです。講義を本にまとめるにあたってはかなり苦労があったと思うのですが、ポイントごとにブロックを作ってくさっていますね。これは CHART 式と言うのですか？ 僕のようなせっかちな循環器内科医にこのようなフォーマットは大変ありがたいです。

基本的にこの本は臨床感染症を身近にとらえるというコンセプトを、ふんだんにスペースを使って伝えてくれるぜいたくなテキストなのだと勝手に思っています。いいじゃないですか、別に循環器内科医や外科医が感染症に興味をもって、心臓や傷口がよくなって患者さんがよくなってくれなくては困りますからね。